



# 命にかかわる気胸のはなし

## 緊張性気胸とは？



呼吸器外科部長

望月 孝裕

気胸は、多くの場合、肺に穴があき空気が漏れることで起こります。漏れ出した空気が肺を圧迫するため、胸痛、咳、息切れといった症状が現れます。

原因として、肺にできた小さな袋に穴があくこと(特発性自然気胸)、肺気腫や結核、腫瘍などによるもの(続発性気胸)、交通事故などの外傷(外傷性気胸)などがあります。

気胸が進行し、肺から漏れ出した空気が溜まり続けると、胸の中の圧力が次第に高くなり、肺だけでなく心臓や大血管も圧迫され始めます。この状態が「緊張性気胸」です。

こうなると、呼吸が急に苦しくなったり、心拍数が上昇したり、血圧が低下したりします。さらに、手足が冷たくなったり、意識がもうろうとする場合もあります。放っておくと、心臓が全身に十分な血液を送れなくなり、命にかかわる危険な状態となります。



緊張性気胸の治療には、胸に穴を開けて太い針やチューブを用いて胸の中に溜まった空気を外へ逃がし、胸の中の圧力を下げる方法が取られます。これを胸腔ドレナージといいます。

緊張性気胸を強く疑う症状があり、時間の猶予がないと判断された場合には、胸部レントゲンやCT検査を行わずに、一刻も早く胸腔ドレナージを行うことが重要です。迅速な治療が生命を救う鍵となります。

緊張性気胸は、普段はあまり耳にしない病気かもしれませんが、誰にでも起こりうるものです。もしも胸が急に痛くなったり、呼吸が苦しくなったりしたら、ためらわずに医療機関に連絡してください。早めの対応が、あなたの命を守ることにつながります。

# 骨粗鬆症リエゾンチームについて

薬剤師 骨粗鬆症マネージャー

長谷 奈那子

磐田市立総合病院の骨粗鬆症リエゾンチームの活動についてご紹介いたします。リエゾンは「連絡係」と訳され、診療におけるコーディネーターの役割を意味します。

骨粗鬆症は閉経や加齢などさまざまな理由で骨が脆くなり、骨折しやすくなる病気です。痛みなどの症状がない患者さんが多く、治療の必要性を実感しにくいいため、薬の服用をやめてしまう患者さんが多くいます。

しかし、治療を続けないと骨折を繰り返してしまい、歩けなくなったりすることで、生活の中で出ることが徐々に減ってしまう怖い病気です。特に太ももの付け根(大腿骨)の骨折は死亡率を上げるといわれており、「ただのケガ」ではすまない病気です。

厚生労働省の報告では、「介護が必要になった原因」として、骨折・転倒は、認知症、脳血管疾患に次いで3番目に多く、骨粗鬆症予防は非常に重要な課題です。

当院の骨粗鬆症リエゾンチームは、骨折を予防し、市民の皆さんに元気な毎日を送ってもらうことを目標に2015年から活動を開始しています。全国的に見ても早くから取り組みを始めており、静岡県内だけでなく県外の医療機関からも見学に来ていただいています。

チームメンバーは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、地域連携室職員の多職種により構成され、毎週木曜日に看護師、管理栄養士による骨粗鬆症看護外来を開設しており、運動指導、栄養指導やお薬の指導を行っています。その他にも、市民公開講座などで講演を行ったり、骨粗鬆症検診の啓発ポスターを作るなど、啓発活動にも力をいれています。

骨密度が気になる方は、まずはお近くの整形外科にご相談ください。

